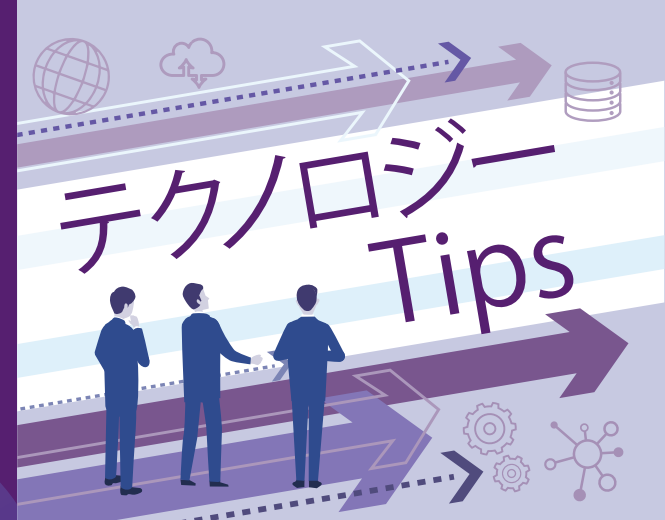




DX基盤には必須！

Windows Server2012のサポート終了が迫っています！ 最新OSへの移行を今すぐ検討しましょう！



2023年10月10日にWindows Server2012/2012 R2のサポートが終了します！

パソコンOSのサポート終了は、しばしば注目を集めますが、実はそれと同様にサーバー OSもサポートを受けられる期間が決まっており、セキュリティ上重大です。古いOSのままサーバーの運用を続けていると、大切なデータが多くの危険に晒されてしまい、思わぬ損失につながる可能性もあります。お使いのサーバーを確認し、もしそれが「Windows Server2012/2012 R2」である場合には、早急に入替を検討しましょう！

そもそもサポート終了とは

サポート終了は「EOS(End Of Support)」と表記されることもありますが、簡単に言うと、ユーザーが保守サービスを受けられる期間が終了することを意味します。つまり、不具合や脆弱性を解消する更新プログラムの発行がされなくなり、コンピューターの安全確保が困難となります。

\ 少し復習！ サーバーとは…？ /

サーバーは、いわば会社の大切なデータを守る金庫です。耐久性・安全性・処理能力に優れ、クライアントPCが安全かつ効率的に動作する上でも重要な役割を果たします。サーバーを利用するメリットをいくつか紹介します。

①データの共有が容易になること

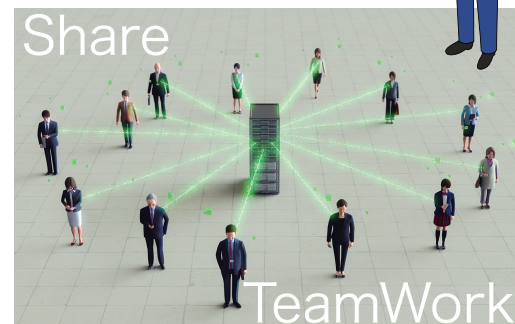
最大のメリットと言えるかもしれません。頻繁にファイル共有を行う場合でも、サーバーを利用することで円滑な共有を実現し、業務効率の大幅な向上が期待できます。

②チーム協働の実現

ファイルサーバー上に保管されているファイルはダウンロードすることなく開けるため、複数のユーザーがファイルサーバーに同時アクセスしてファイルを編集するといったチームワークが容易となります。

③データ保管の安全性

ファイルサーバーはパソコンよりも堅牢で耐障害性が高いため、安全にデータを保管できます。アクセス権の設定などセキュリティ管理がしやすいため、情報漏えい等のリスクを低減することができます。



\ サポートが終了するとどうなるの？ /

▶セキュリティリスクが増大

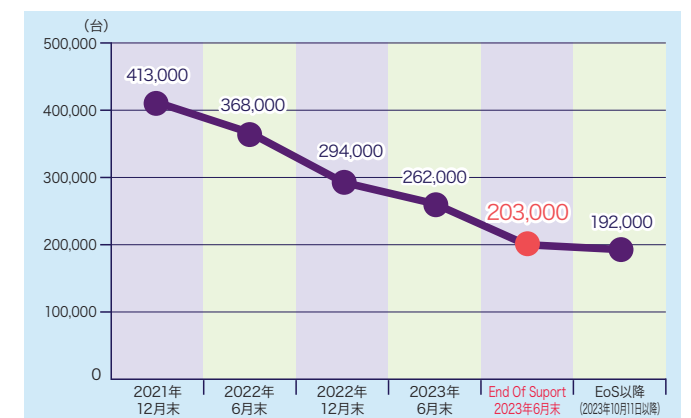
サポートが終了することに伴う最大の懸念点です。先ほども述べた通り、サポートが終了すると、脆弱性をカバーするための更新プログラムが発行されなくなり、新たな脅威への対応ができなくなってしまいます。技術の発達に伴って、セキュリティ上の脅威も日々巧妙化、多様化している中、サイバー攻撃によってデータが破壊されたり、個人情報等の漏えいが起きたりして、大きな損失が生じるリスクが高まります。また、そういった重要データを保存していないとしても、セキュリティ上脆弱なサーバーが踏み台となって、他のサーバーやネットワークでつながったPCへのウイルス侵入を許してしまうことがあります。

▶新たなソフトウェアやハードウェアに対応できない可能性がある

サポート期間の終了後にリリースされたソフトウェアの動作環境では、古いOSが対象から除外されている可能性があります。また、インストールや操作自体は可能であっても、不具合などへの対応は受けられないため、非常に不便であることが予想されます。ハードウェアのドライバーについても同様です。それまで使ってきたドライバーであっても、アップデートをきっかけに古いOSでは動かなくなることがあります。

このように、サポートが終了したOSを使い続けることのリスクは、決して小さいものではありませんが、サポート終了が迫る現時点でも、Windows Server2012が多く稼働しているというのが実情です。

2022年6月末時点で36万台以上が稼働していると言われており、サポート終了時点でも20万台以上という予測があります。今一度、お使いのサーバー OSの確認をオススメします！



\ 新しいOSに移行するメリット /

ここまで、古いOSの利用を継続することのリスクという消極的な側面を強調してきましたが、新しいOSに移行するメリットとしては反対のことが言えます。つまり、セキュリティの向上です。リスクの増大に伴い、サーバー OSも新しくなるにつれてセキュリティ機能の充実化が図られています。過去には、高度なウイルス対策機能が標準搭載になったり、多層防御が利用可能になったりという例があります。セキュリティへの投資予算が限られている場合でも最新OSに移行するだけでセキュリティ強化が図れる点もポイントです。また、移行に際しては、サーバーの用途の把握や精査というプロセスが必要となるため、データ管理の在り方を見直したり、保管されているデータを整理する機会ともなります。

8

つのチェックポイントで 社内サーバーのセキュリティリスクを洗い出しましょう！

① ■ サポート終了まではまだまだ余裕があると思いませんか？

システムの更新・更改は一朝一夕にできるものではありません。計画から実際の運用開始に至るまでには、1年以上の時間を要する場合もあるため、着手が遅れると、サポート終了までに新システムを稼働させることが難しくなるかもしれません。
また、サポート終了後もWindows Server2012/2012 R2の使用を続けること自体は可能ですが、セキュリティ上のリスクや障害時の対応などを考えると避けたいところです。移行プロセスの計画的な遂行が重要です。



② ■ 用途不明のパソコンはありませんか？

社内に用途が分からないパソコンがある場合、そのパソコンが業務アプリケーションやファイル共有用のサーバーである可能性があります。
まずは、サーバーであるか否かを明確にして用途を特定することと、バージョンの把握を行うことが必要です。
確認が困難な場合は、ご相談ください。



③ ■ インターネットに接続していないから大丈夫と考えていませんか？

インターネットに接続していない場合、「アップデートしなくても大丈夫」と勘違いしてしまうケースがありますが、インターネットに接続していなくても、脅威に晒されていることには変わりありません。USBメモリや社内ネットワークを経由してウイルスに感染するリスクはあり、そのサーバーを踏み台として被害が拡大してしまうことがあります。
堅牢性に優れたサーバーとは言え、確実にアップデートを行い、セキュリティリスクを低減しておくことが重要です。



④ ■ サーバーで管理している情報は把握できていますか？

特に注意を要する情報の1つが、顧客の個人情報です。個人情報が漏えいした場合、損害賠償などの金銭的損失だけでなく、信用失墜といったレピュテーションリスクも想定されます。サポートが終了したOSを利用していたことによって漏えいのリスクが高まったとすると、安全管理措置が不十分であったと判断され、ペナルティにも影響が出てきます。
保管されている個人情報を把握、特定することと併せて、万が一漏えいが発生してしまった場合に報告や通知が迅速に行えるようにしておくことも大切です。
今一度、サーバーで管理している重要情報を精査し、然るべき対応を取りましょう。



⑤ ■ 従来のやり方が変わることに抵抗を感じていますか？

従来のやり方が変わることを面倒に感じ、システムの更新・更改に対して及び腰になってしまうことがあります。
確かに、負担が増える局面があるかもしれませんが、それは一時的、限定的なものです。繰り返し述べますが、古いOSの使用を継続し、大切なデータや情報が重大リスクに晒されることを考えた時に優先すべきことは明らかです。
リスク回避のため、OSやサーバーの入替えは必須です。また、新機能に慣れれば、業務効率の向上も期待できます。



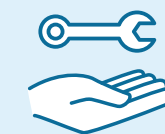
⑥ ■ システムの更新・更改にはメリットがないと感じていますか？

メリットについては先述の通り、主にセキュリティリスクを低減できることやスペックの向上が挙げられます。
同等スペックの最新のサーバーと古いサーバーを比較した場合、例えば電力効率の面で最新型の方が優れていることが多いです。入替えに際して一時的に費用はかかりますが、電気代などを含めたトータルコストで考えれば、費用対効果は十分にあると言えます。中長期的、全体的な視点でシステム運用を考えていきましょう。



⑦ ■ システムの更新・更改に伴う手間を考えて、入替えを諦めていませんか？

先述の通り、確かにシステムの更新・更改には計画から運用までに1年以上の月日を要する場合があります。容易なものとは言えません。ただ、それが面倒だからと、システムの更新・更改を行わず、悪意の第三者によってデータが破壊されたり、重要な情報が漏えいしたりといったことが起きてしまった場合、原因調査や復旧作業、失墜した信用の回復など、更新・更改に伴う手間を遥かに上回る面倒な手間や時間が発生します。
面倒がらずに、計画をしっかりと立てて、遂行していきましょう。



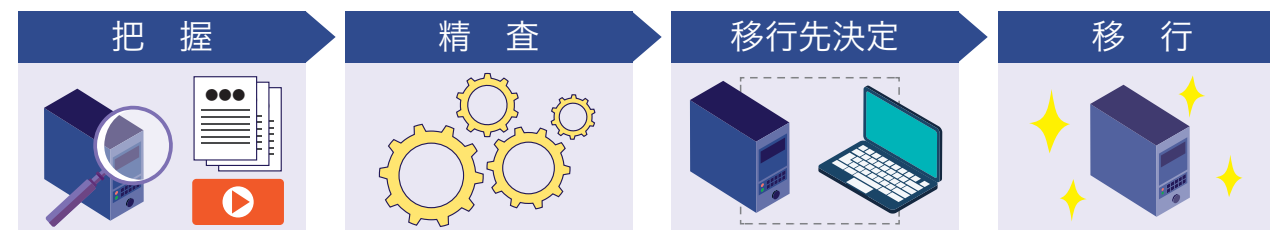
⑧ ■ サーバーの雑音が大きくなっていませんか？

サーバーの雑音がひどくなっている場合、耐用年数の限界に近いのかもしれません。Windows Server2012のリリースからは既に10年が経過し、老朽化が進んでいる可能性が高いです。パーツが消耗することなどにより、ハードウェア自体が故障するリスクも大きい状況と言えます。
また、ハードウェアの不具合によるシステム不調でデータの移行作業などが進まず、システム更新・更改の計画に遅延を生じることも考えられるため、早急な対応が必要です。



＼ 移行のプロセス ／

最後に、最新のサーバー OS 環境に移行するためにはどういったプロセスが必要かということを見ていきます。
まずは、現時点でサーバーをどのような用途で使用しているかを把握して、精査しましょう。続いて、移行先を決定します。ちなみに、約7割の企業がオンプレミス環境を移行先として検討し、残りの3割がクラウド環境への移行を検討しています。
計画から実際の運用までに1年以上かかることもあり、2023年10月のサポート終了に向けた早めの対応が必要です。



最新のOSに移行して、
セキュリティ対策の強化を実現しませんか？



っと当社にご相談ください！



Daichi 株式会社
SYSTEM ダイチシステム
〒103-0005 東京都中央区日本橋久松町 12-4
TEL : 03-5652-9855 FAX : 03-5652-9856
E-mail : info@daichisystem.co.jp
URL https://www.daichisystem.co.jp